

神奈川県立足柄上病院

「病院の入口から出口、その先までを一貫して診る」 「世界標準を地域で実践できる医師をめざす」

当院は、神奈川県西部、人口12万人の足柄上地域で唯一の急性期医療機関です。当地域は横浜市とほぼ同じ面積ながら人口は20分の1で、県都市部より10－15年早い高齢化地域で、入院の多くは高齢者の救急疾患であり、複数の疾病を有する患者がほとんどです。初診・時間外外来では、診断がついていないまたは未解決の健康問題の患者が多数訪れます。このような地域特性に必要とされる医師像は…

- ①専門性にとらわれず、多領域の疾患を適切に診断・マネジメントでき、高度専門医療が必要な際に迅速に紹介することができる
- ②多疾患併存患者、社会的・環境的困難を抱える患者を全人的に把握し、身体疾患にとどまらない健康問題の解決に取り組むことができる
- ③病院スタッフはもとより、地域の医療・介護従事者の役割を把握し、診療のチームリーダーとして、複雑な問題の解決に向けた円滑なコミュニケーションと協力体制を構築できる

このような医療を目指すため、当院は神奈川県で最も早く総合診療科を標榜し、以来内科の中心として病院を支えています。

地域医療の中核として機能するために、2014年に地域医療センターを立ち上げ、救急入院から退院までを包括的に支援する体制を確立しました。地域医師会、診療所との協力体制を強化し、患者・家族が安心して在宅療養に移行できるよう患者宅で在宅医と共同診療を行う在宅療養支援事業を開始、2016年度には地域包括ケア病棟を開設しました。

専攻医プログラムは、当院を基幹研修施設とし、総合診療科および総合診療系・小児科系連携施設での研修を通じ、common diseaseをはじめとする幅広い健康問題を経験し、臓器横断的視野から診断、治療、ケアを実践し、地域医療貢献をはかることを目標とします。連携施設としては、当医療圏における小児科センターである小田原市立病院小児科のほか、僻地診療所（真鶴町）、大都市での地域医療、外来のみならず訪問診療も行う精神科診療所などがあります。

足柄地域は箱根・丹沢の山々、酒匂川水系、足柄平野を配する自然豊かな土地ですが、新幹線利用で東京まで1時間程度と、都心へのアクセスは良好です。また当院総合診療科草創期の発展に尽力された横浜市立大学総合診療医学・太田教授のご協力の下、院内外での講義、研修、他病院総合診療科との連携を図っています。

地域のニーズから生まれた、地域医療の柱としての総診を経験しませんか。是非ブースにお立ち寄りください。